

# 横浜労災病院整形外科 専門研修プログラム

2022 年度版

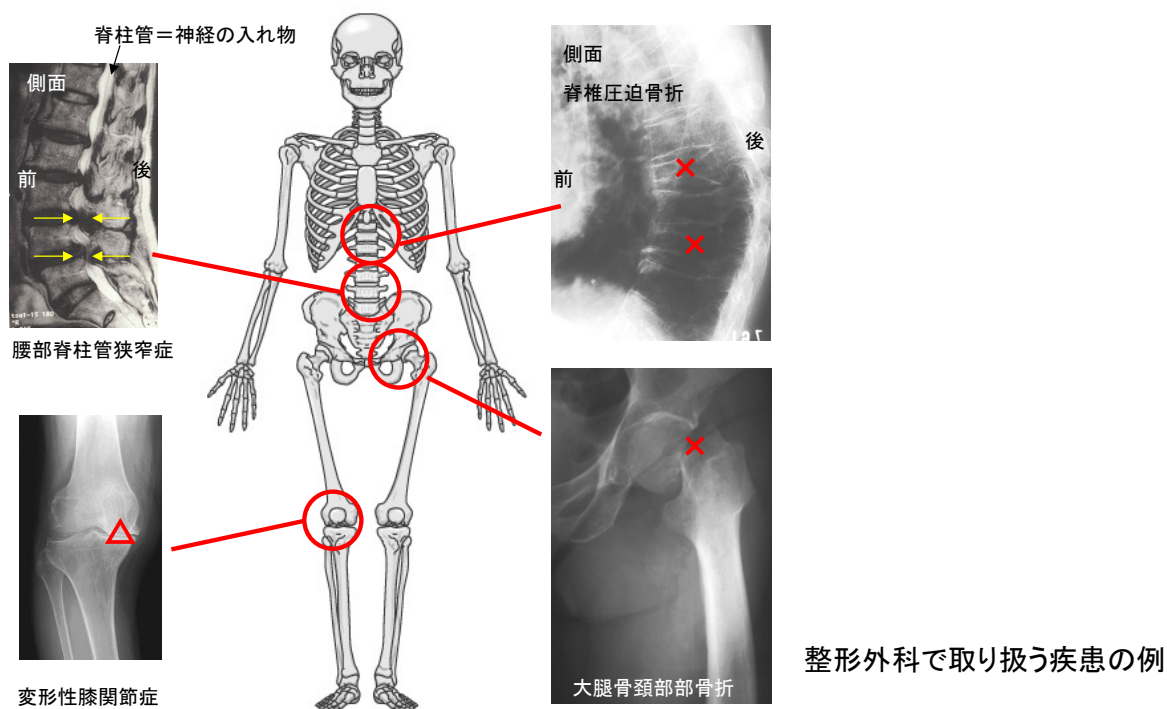
## 目次

1. 横浜労災病院整形外科プログラムについて	2 頁
2. 横浜労災病院整形外科研修の特徴	3 頁
3. 横浜労災病院整形外科専門研修の目標	12 頁
4. 横浜労災病院整形外科専門研修の方法	14 頁
5. 専門研修の評価について	15 頁
6. 専門研修プログラムの施設群について	17 頁
7. 専攻医受入れ人数について	18 頁
8. 地域医療・地域連携への対応	18 頁
9. サブスペシャリティ領域との連続性について	18 頁
10. 整形外科研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件	18 頁
11. 専門研修プログラムを支える体制	19 頁
12. 専門研修実績記録システム、マニュアル等について	19 頁
13. 専門研修プログラムの評価と改善	20 頁
14. 専攻医の採用と修了	21 頁
連携施設一覧:新患数+手術件数	22 頁
横浜労災整形 週間予定	24 頁
横浜労災・東大整形 年間予定	25 頁

# 1. 横浜労災病院整形外科プログラムについて

整形外科は「運動器」を扱う診療科です。運動器は動物の生命を維持するために必要不可欠な活動である「運動」を担う器官の総称で、骨、関節および筋など直接運動に関与する組織、さらにはこれらの働きを制御する神経系などを含みます。これら運動器の構成成分である各組織は、それぞれが固有の役割を果たすとともに、お互いに密接な関連をもちながら身体運動という高度な生体機能を実現しています。

運動は人間にとって根源的な機能です。このため運動器の健康を維持することは、人間が人間らしく生きるために大変重要な意味をもっています。人口の高齢化が進むわが国においては、介護を要する患者が激増していることが問題になっていますが、介護に至る大きな原因の一つが骨折や関節疾患など、運動器の問題であることも、運動器の重要性を示す一つの証拠とすることができます。高齢者に運動器障害が生じやすいのは確かですが、運動器のケアが必要なのは高齢者だけではありません。トップアスリートや一般の人々のスポーツ障害、骨折や捻挫などの外傷に対する予防や治療も整形外科が担う分野です。また生まれながらにして運動器に障害を有する先天性運動器疾患に対する治療も行います。以上のような理由から、整形外科に対する社会のニーズは今後ますます高まっていくことが予想されます。



本研修プログラムの主要連携病院となる東京大学医学部附属病院を運営する東京大学に日本で初めての整形外科学教室が設立されたのは 1906 年のことです。それ以来百年以上にわたって、東京大学整形外科はわが国の整形外科医療を中心となって牽引してきました。連携施設に規模の大きな病院が多いのはそのためです。関節鏡の開発や脊髄電位測定、寛骨臼回転骨切り術や棘突起縦割法など東大整形外科から生まれた画期的な医療技術は枚挙にいとまがありません。しかし我々が大事にしているのは、高度な医療を行うことだけではありません。整形外科専門医を目指す若手医師に対して、整形外科医として身につけるべき知識、技術、考え方、そしてこころを伝えることが何よりも重要な仕事であると考えています。

近年の医学は驚異的なスピードで進歩しています。学ぶべき知識や技術は年々増加しており、その修得には大変な努力を要します。ともすれば情報の洪水の中で、どこから手をつけてよいのか途方に暮れてしまうかもしれません。我々は百年を超える伝統の中で築いてきたノウハウによって、知識や技術の伝授に

最適な方法を築いてきました。それは今風に言えば、「屋根瓦方式」といえるようなシステムであり、上級医の直接の指導のもとに、若手医師に実地で経験を積んでもらい、実践の中から真に必要な知識や技術を学んでもらうというものです。今回スタートする横浜労災病院整形外科プログラムでも、この指導法を踏襲しています。専攻医トレーニングの時代から、皆さんは数多くの患者さんの主治医になり、治療計画を立て、自ら手術を執刀することになります。医師にとって何よりも重要なことは、患者さんに喜んでもらう医療を行うことです。この目標は技術を身につけるだけでも、知識を学ぶだけでも達成することはできません。実際に患者さんに主治医として接し、責任をもって治療・手術を行い、患者さんやご家族と喜びや悲しみを共有することによってはじめて達成できる目標です。これが、我々が実践の中での学びを重視する理由です。

このような教育システムが可能なのは、横浜労災病院整形外科プログラムには東京大学医学部付属病院をはじめ、優れた指導者と豊富な症例数を有する多くの連携病院が所属するからです。本研修プログラムの基幹病院である横浜労災病院では年間 1700 件の整形外科手術(2020 年度)を行っており、整形外科のほぼ全分野をカバーしています。整形外科専攻医研修プログラムにおいて必要とされる症例数は、年間新患数が 500 例、年間手術症例が 40 例と定められておりますが、基幹施設および連携病院を合わせた年間新患数は約 68000 名、年間手術数はおよそ 27000 件であり(2020 年度)、皆さんは横浜労災病院、東京大学医学部付属病院および連携病院とのローテーションによって、整形外科医に必要とされるすべての専門分野で、バランス良く、充実した研修を受けることができます。また連携施設を合わせた学会発表や発表論文数も非常に多く、みなさんが臨床研修中には学会発表や論文執筆の機会は数多くあります。そして、本研修プログラム修了後には東京大学大学院への進学やサブスペシャリティ領域の研修を開始することが出来ます。

最後に私たちがめざしている医療を掲げて、横浜労災病院整形外科プログラムの紹介とさせていただきます。

- ① 思いやりの気持ちをもって医療に取り組むこと
- ② 卓越した技術のもとに安全・確実な医療を提供すること
- ③ 基礎・臨床研究を通じて未解決な問題に取り組むこと
- ④ 医療や医学を通じて社会に貢献すること

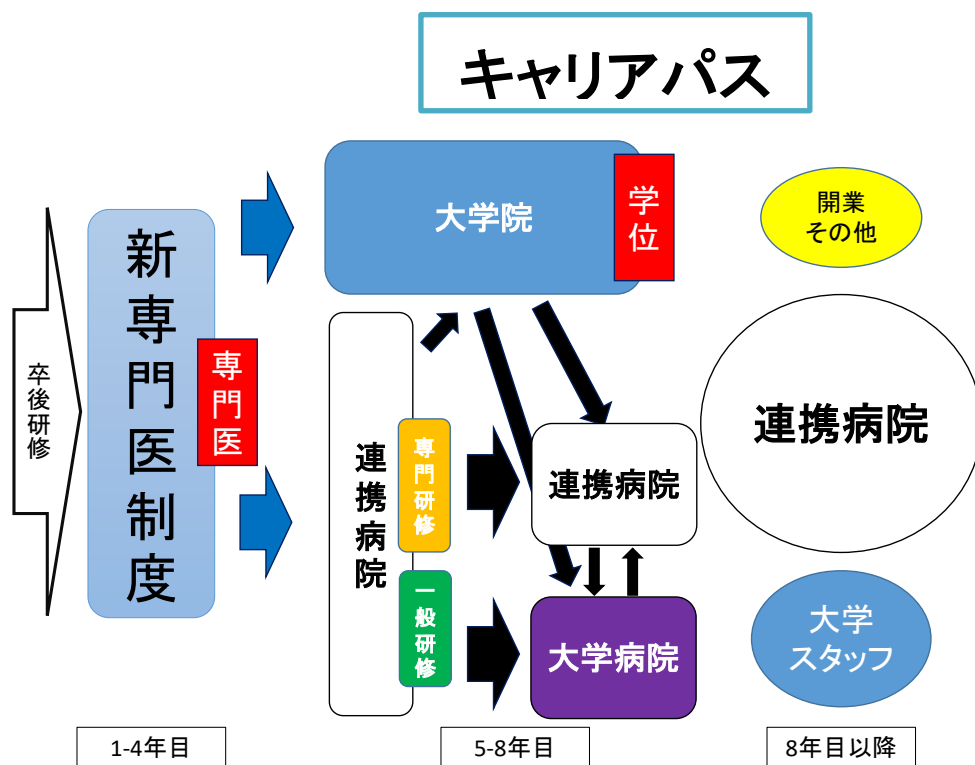
未開拓の整形外科分野を切り開く意欲のある方の応募をお待ちしております。

## **2. 横浜労災病院整形外科専門研修の特徴**

本研修プログラムでは、4 年間の研修期間の中で、整形外科医としての知識や技術の修得はもちろんのこと、医師としてのプロフェッショナリズムや、患者さんの診療やチーム医療に必要なコミュニケーション能力など、臨床医として不可欠な素養を身につけることを目標としています。これまで本研修プログラムの主要連携大学施設となる東京大学整形外科では、初期研修を終えた医師を毎年約 20 名受け入れ、整形外科専門医としての教育をしてきました。今回、新専門医制度のためにこれまでの研修システムを改良し、4 年間で整形外科医としての礎を築き、その後のサブスペシャリティ研修や大学院進学へと切れ目なくつなげるプログラムを準備しました。本研修プログラムは、横浜労災病院を基幹とし、東京大学医学部付属病院をはじめ、東京大学整形外科教室の連携施設である神奈川県内・東京都内の主要病院や他県の中核病院をローテーションすることで、外傷や変性疾患などの一般整形外科から骨軟部腫瘍や骨系統疾患などの稀少疾患まで、幅広く充実した研修ができるのが特徴です。東京大学整形外科教室では以前からローテーションシステムを導入し、整形外科ジェネラリストとしての総合力を培うことを臨床研修の第一目標にしてきており、各連携施設が効率的な研修を行うためのノウハウを有しているのが大きな強みの一つです。

本研修プログラム修了後の進路としては、東京大学大学院進学、専門施設研修(サブスペシャリティー

研修)、一般整形外科研修の3コースを用意しています。これまでの経験から、整形外科医として十分な知識と技術を修得し、リーダーとしてチームを牽引する力をつけるには、最低でも8年間は必要だと考えています。専門医取得後も、さらに連携病院をローテーションすることで整形外科医としての研鑽を積み、専門分野が決まった時点で専門施設研修を開始します。また大学院教育にも力を入れており、専門医取得後に大学院で基礎研究や臨床研究に従事することで、リサーチマインドを持った研究医を育成する環境も整備されています。



### ① 横浜労災病院整形外科について

横浜労災病院は横浜市北東部医療圏の地域中核施設として1991年に開設されました。当時全国最後の37番目の最新鋭の労災病院であり、その設立趣旨としては労災病院群のリーディングホスピタルとして高い医療レベルを整え、さらには地域中核施設としての医療態勢を整備することとされており、勤労者医療、高度医療、救急医療、地域医療、安全な医療、優れた医療者の育成を基本方針として日々の診療に取り組んでいます。39診療科を標榜、病床数650床を擁し、救急救命センター・ICU・救命ICU・NICUなど大規模施設に必要な設備をほとんど備えています。そして、2020年度実績でコロナ患者専用病棟開設ならびにコロナ感染患者の診療などにより通常診療に大きな制限がありました。年間新患外来患者数：46643人、一日平均外来患者数：1597.5人、一日平均入院患者数：447.5人、平均在院日数：9.8日、年間救急車受け入れ台数：5690台、年間手術室総手術件数：7526件と非常に充実した診療活動を行っています。整形外科は初代田淵健一部長(平成3年～平成9年)に始まり、三上容司部長(平成9年～、平成22年からは副院長に昇格し運動器センター長兼務、令和3年～院長)、三好光太郎部長(平成25年～、脊椎脊髄外科部長兼務、令和3年～副院長)と引き継がれ、労災病院としての使命からも院内において中心的な役割を担い、2020年度実績ではコロナ禍による診療制限の影響が整形外科にも大きくありましたが、年間総手術件数：1766件、一日平均外来患者数：104.8人、一日平均入院患者数：80.5人など、大学病院も含めた大規模施設が多数存在する横浜市内でも随一の整形外科となっています。2022年度は整形

外科スタッフ 17 名で整形外科病床 103 床を駆使し、脊椎脊髄外科、手・末梢神経外科、リウマチ・人工関節外科、外傷を主軸に、さらなる発展が見込まれています。

## ② 東京大学医学部附属病院整形外科について

東京大学整形外科学教室は 1906 年に開設された日本で最も古い整形外科教室です。「良医を育成する」という伝統は、整形外科の礎を築いた田代義徳教授(明治 39 年～大正 13 年)から高木憲次教授(大正 13 年～昭和 23 年)、三木威勇治教授(昭和 24 年～40 年)、津山直一教授(昭和 40 年～59 年)、黒川高秀教授(昭和 59 年～平成 10 年)、中村耕三教授(平成 10 年～23 年)、そして田中栄現教授(平成 24 年～)まで、脈々と受け継がれてきています。現役で活躍している同窓会員は 800 人を超える、日本最大規模の整形外科学教室です。連携病院を含めた年間総手術件数は 30,000 件を超え新患数は 90,000 名にも及びます。その中核にある大学病院では、他院で治療を行うことが困難な症例を中心に、年間約 1,300 件の手術を行っています。時代の変遷とともに大学病院で扱う疾患は変化していますが、現在は高齢化に伴う変性疾患を中心に、骨軟部腫瘍や骨系統疾患などの稀少疾患も数多く治療しています。外傷の手術などの一般的な手術も多数手がけるとともに、ナビゲーションを用いた人工関節置換術や前十字靭帯再建術、内視鏡を用いた脊椎手術など最先端の技術を駆使した治療や、悪性骨軟部腫瘍の広範切除術の症例も多く、幅広い疾患に対応しています。また大学病院ならではの超難治症例については、血管外科、呼吸器外科、形成外科などと連携してチームを編成し、合同で行う手術も増えています。

リハビリテーション部及び救急部とは密な協力体制をとって診療を行っています。リハビリテーション部は芳賀信彦教授を含め 3 名の整形外科出身スタッフが勤務しており、協力して術前術後のリハビリテーションに取り組んでいます。また救急部には中島勸センター長をはじめ、外傷チームが整形外科から配属されており、整形外科と連携して主として外傷の診療にあたっています。最近ではこれらの部署と共同で骨転移ボードと脊髄損傷ボードを立ち上げ全国的に脚光を浴びています。

## ③ 横浜労災病院整形外科専門グループ

横浜労災病院整形外科はほぼ全ての整形外科的疾患に対応していますが、特に脊椎脊髄外科、手・末梢神経外科、リウマチ・人工関節外科、外傷の 4 分野を主軸としています。

- (1) **脊椎脊髄外科**: 日本脊椎脊髄病学会脊椎脊髄外科専門医基幹研修施設に認定され、三好光太脊椎脊髄外科部長および竹下祐次郎副部長を中心に診療し、頭頸移行部から骨盤まで変性疾患、外傷、転移性腫瘍を含む腫瘍まで全ての脊椎疾患を対象とし、特に小児や腫瘍などについては全国から患者の受診があり、顕微鏡下手術・内視鏡下手術・MIS 手術などにも全て対応しています。
- (2) **手・末梢神経外科**: 日本手外科学会認定施設に認定され、三上容司副院長および山本真一手・末梢神経外科部長を中心に診療し、手指の機能障害や肘部管症候群・手根管症候群といった一般的な障害や疾病に限らず、専門的診療を要す腕神経叢損傷にも対応し、積極的な手術加療を行っています。
- (3) **リウマチ・人工関節外科**: 小泉泰彦人工関節外科副部長を中心に診療し、四肢全ての人工関節に精通し、MIS 手術なども積極的に取り入れています。
- (4) **外傷**: 小林誠運動器外傷センター長を中心に診療し、手術治療に固執せず、的確な保存療法も行い、徹底した機能回復の向上を目指しています。

## ④ 東京大学整形外科専門グループ

現在 11 の専門グループがあり、1-9 までは大学病院で手術も行います。

(1) **脊椎診**: 頸椎・胸椎・腰椎疾患、側弯症、脊髄腫瘍、悪性腫瘍脊椎転移、脊髄損傷などを中心に診療を行っています。手術に際しては、脊髄電位モニタリング、ナビゲーションなどを使用して、正確かつ安全な手術を行っています。最近では内視鏡を用いた脊椎手術症例も数多く手がけています。

(2) **関節診(リウマチ外科)**: リウマチなどの炎症性疾患による関節破壊に対し、各種の人工関節置換術、

手足の変形矯正手術を行っています。また生物学的製剤などの薬物療法にも積極的に取り組んでいます。

(3)膝・スポーツ診:変形性膝関節症、半月板損傷と前十字靭帯損傷に代表される膝関節疾患の診療を行っています。現在治療法を中心になっている関節鏡は、当教室の高木憲次第二代教授および渡辺正毅先生によって開発され、発展しました。前十字靭帯損傷に関しては、わが国で最も古くから取り組んでおり、代表的な診断法であるNテストは当教室の中嶋寛之先生が考案された手技です。スポーツによって起こるアキレス腱断裂やJones骨折などの治療も行っています。人工膝関節手術も年間120件以上にのぼり、常に最新の手技、知見を取り入れて積極的に取り組んでいます。

(4)股関節診:変形性股関節症や大腿骨頭壊死症に対して人工股関節全置換術や骨切り術を行っています。臼蓋形成不全に対する寛骨臼回転骨切り術は、当教室の田川宏先生が考案された術式です。また近年では、当科で開発した長寿命型の人工股関節は世界的に高い評価を得ています。股関節鏡を用いた治療や検査にも取り組んでいます。

(5)手外科診:上肢の骨・靭帯・腱損傷を伴う外傷や変性疾患を手術します。また手根管や肘部管の絞扼性神経障害も治療します。マイクロサージャリーにも積極的に取り組んでいます。正確な解剖知識や卓越した手術手技に基づいた治療を行っており、優れた手術成績を残しています。

(6)腫瘍診:良性・悪性骨軟部腫瘍の手術を行います。悪性腫瘍に対しては、自科で化学療法も行っています。他科との連携も良好に行っています。

(7)足外科診:近年症例が増加している専門診です。外反母趾、変形性足関節症、麻痺やリウマチによる足部の疼痛や変形を治療します。

(8)外傷診:高エネルギー外傷、開放骨折、大腿骨近位部骨折、骨盤骨折などあらゆる外傷に対応します。

(9)小児整形診・骨系統診:小児の運動器疾患全般をみつかり、先天性疾患や脳性麻痺などの手術を行います。また骨系統疾患の診断と治療も行います。

(10)末梢神経診:腕神経叢損傷、分娩麻痺、絞扼性神経障害の診断と治療を行います。

(11)脚延長診:脚長不等、骨系統疾患の脚延長、骨髄炎、難治骨折の治療を主に創外固定で治療します。

サブスペシャリティは、希望に応じて自由に選択できます。専門を決めずにオールラウンダーとして一般整形外科の研修を行ったり、研究医としての道を進んだりすることも可能です。

## ⑤ 連携施設

本研修プログラムは基幹施設の横浜労災病院と41の連携施設からなり、東京都内・神奈川県内の主要病院を中心に近隣県の中核病院も多く含まれています(東京都23病院、神奈川県5病院、埼玉県5病院、茨城県2病院、長野県1病院、静岡県2病院、千葉県1病院、栃木県1病院)。巻末表のように年間手術件数で分類すると1000例以上の大型総合病院が11施設、約400-1000件の総合病院が23施設、残り2施設はこども専門施設とリハビリ専門施設と充実した研修が可能な連携施設を整えています。

総合病院の中には専門性の高い分野に特化した部門を設けている施設もあります(次頁表参照)。これらの施設では総合研修と同時にサブスペシャリティ研修にも触れることができます。

外傷については、すべての病院で万遍なく学ぶことができます。脊椎の専門研修施設は9病院あり、それぞれ300例前後の脊椎手術を行っています。内視鏡手術から多椎間固定まで豊富な症例を経験できます。関節リウマチの治療については、リウマチ科が併設されている6病院で、外科的治療だけではなく、生物学的製剤による内科的治療やリハビリテーションなど、トータルケアを学ぶことが可能です。また小児整形の研修病院も3施設あり、静岡県立こども病院は県内全域から小児整形の患者が受診します。スポーツ整形外科は、前十字靭帯再建術が年間300件以上という全国屈指の症例数をほこる関東労災病院があり、手外科は日手会認定研修施設が11病院あり、股関節診は骨切りを含めた手術を行っている施設が9病院あります。末梢神経疾患については高度の技術を要するため症例を集約し、横浜労災病院・都立広尾病院を中心に腕神経叢損傷に対する肋間神経移行術を行っています。最近では、リハビリテーションに

興味をもつ整形外科医も増加しており、国立障害者リハビリテーション病院・JR 東京総合病院などで専門研修を行うことができます。

<b>サブスペシャリティ研修</b>		
<b>脊椎</b>	<b>リウマチ外科</b>	<b>腫瘍</b>
東京大学医学部附属病院 日赤医療センター JCHO 東京新宿メディカルセンター 横浜労災病院 関東労災病院 NTT 東日本関東病院 武蔵野赤十字病院 三楽病院 さいたま赤十字病院	東京大学医学部附属病院 都立墨東病院 都立多摩総合医療センター 横浜労災病院 国立病院機構相模原病院 JCHO 湯河原病院	東京大学医学部附属病院 都立駒込病院 自治医大埼玉医療センター
		<b>小児</b>
		静岡県立こども病院 心身障害児総合医療療育センター 都立北療育医療センター
		<b>末梢神経</b>
		横浜労災病院 都立広尾病院
<b>股関節</b>	<b>手外科</b>	<b>リハビリテーション</b>
東京大学医学部附属病院 さいたま赤十字病院 関東労災病院 横浜労災病院 都立墨東病院 JR 東京総合病院 国立国際医療研究センター 都立多摩総合医療センター 日赤医療センター	さいたま赤十字病院 国立病院機構相模原病院 関東労災病院 東京大学医学部附属病院 虎ノ門病院 東京通信病院 JR 東京総合病院 NTT 東関東病院 関東中央病院 横浜労災病院 都立広尾病院	東京大学医学部附属病院 国立障害者リハビリセンター JR 東京総合病院
<b>膝・スポーツ整形</b>		<b>救命救急</b>
関東労災病院 東京大学医学部附属病院 JCHO 湯河原病院 東京通信病院 国立国際医療研究センター JR 東京総合病院		東京大学医学部附属病院 埼玉医大総合医療センター 都立墨東病院



## ⑥ 大学院・留学

臨床におけるさまざまな問題を解決するために、研究は大きな意義を有しています。東京大学整形外科教室では、リサーチマインドを持つことで外科医としての視野が広がり、新しい研究や技術が生まれるとの考えから研究を奨励してきました。研修終了後、大学院に進学するコースが用意されています。大学院では4年間、臨床業務を負担することなく、研究に没頭できる環境を準備しており、毎年多くの研究成果を生み出しています。

大学内では骨粗鬆症や脊椎・関節の変性疾患の治療標的となりうる遺伝子について、遺伝子改変マウスなどを用いて解析しています。またバイオメカニクス研究についても、臨床例を用いた研究を行っています。教室外の研究サポート体制も充実しており、東京大学内の寄附講座では、軟骨再生、生体イメージング、運動器疾患の大規模コホート研究、次世代の人工関節開発、腰痛を中心とした運動器疼痛等について、わが国をリードする基礎研究・臨床研究に取り組んでいます。また骨免疫学の創始者である東京大学免疫学教室の高柳広教授、がん研究で有名な東京大学医科学研究所の松田浩一教授、わが国のゲノム研究の第一人者である理化学研究所の池川志郎先生、国立障害者リハビリテーションセンター研究所の緒方徹先生（脊髄損傷研究）、澤田泰宏先生（メカニカルストレス研究）は当教室の同窓生であり、これらの施設とは密に連携しながら研究を行っています。その他、東京医科歯科大学、大阪大学、京都大学、奈良県立医科大学等との共同研究も行っています。このように自分の興味を持った分野のトップラボで最先端の研究に従事することができ、整形外科を違う角度から見直す良い機会となるため、毎年多くの大学院進学希望者がいます。

またグローバルな視野を身につけるために、希望者には海外留学の機会を提供しています。海外施設とのパイプは太く、基礎研究、臨床研究いずれの分野でも、毎年多くの留学者を送り出しています。実際には北米を中心に、ヨーロッパやオーストラリアなど、様々な国に留学しています。

### 国内留学

東京医科歯科大学  
大阪大学  
京都大学  
奈良県立医科大学  
金沢大学  
癌研有明病院  
国立がん研究センター  
岩井整形外科（脊椎内視鏡）  
榛名荘病院（脊椎外科）  
名城病院（脊椎外科）  
船橋整形外科（肩関節外科）

### 海外留学

Harvard Medical School (USA)  
Yale University (USA)  
Stanford University (USA)  
Washington University, St. Louis (USA)  
University of California, San Francisco (USA)  
University of Pennsylvania (USA)  
University of Connecticut ( USA )  
University of Pittsburg (USA)  
Mayo Clinic ( USA )  
Hospital for Special Surgery (USA)  
Memorial Sloan Kettering Cancer Center (USA)  
Hospital for Sick Children (Canada)  
Royal Liverpool University Hospital (UK)  
Strasbourg University (France)  
University of Basel (Switzerland)  
Schulthess Klinik (Switzerland)  
Innsbruck Medical University (Austria)  
Oslo Sports Trauma Research Center (Norway)  
University of Melbourne (Australia)

### ⑤研修コースの具体例

本プログラムは下表のごとく、横浜労災病院を中心に東京大学医学部附属病院を含む連携施設をローテーションして必要単位を取得する複数のコースを準備しています。多くの施設で幅広い分野の手術を行っており、それぞれの特徴を生かしつつ、脊椎、上肢、下肢、外傷、リウマチ、スポーツ、小児、腫瘍、リハビリテーションと万遍なく一般整形外科の研修を行うことができます。また前述の通り、専門施設も多く含まれていますので専門的な治療を経験することも特徴の一つです。

例)ローテーションによる単位取得

プログラム1		1年目		2年目		3年目		4年目		
研修施設		東京大学	横浜労災	さいたま赤十字	国立相模原	静岡こども	合計			
分野	必要単位数									
1.脊椎・脊髄	6		1	3	2		6			
2.上肢・手	6		3	3			6			
3.下肢	6		3		3		6			
4.外傷	6		3	3			6			
5.リウマチ	3				3		3			
6.スポーツ	3	3					3			
7.小児	2					2	2			
8.腫瘍	2	2					2			
9.リハビリ	3	1	2				3			
10.地域	3			1		2	3			
流動	8			2	4	2	8			
合計	48	6	12	12	12	6	48			

プログラム2		1年目		2年目		3年目		4年目		
研修施設		横浜労災	東京大学	横浜労災	関東労災	浅間総合	おおたかの森	合計		
分野	必要単位数									
1.脊椎・脊髄	6	2		1	3			6		
2.上肢・手	6	2		1	3			6		
3.下肢	6			2		2	2	6		
4.外傷	6				3	2	1	6		
5.リウマチ	3		2	1				3		
6.スポーツ	3				3			3		
7.小児	2	2						2		
8.腫瘍	2		2					2		
9.リハビリ	3		2	1				3		
10.地域	3					2	1	3		
流動	8					6	2	8		
合計	48	6	6	6	12	12	6	48		

プログラム3		1年目		2年目	3年目	4年目	
研修施設		日立 総合	東京 大学	横浜労災	東芝林間	茨城県立中央	合計
分野	必要単位数						
1.脊椎・脊髄	6	2		4			6
2.上肢・手	6			4	1	1	6
3.下肢	6	1			4	1	6
4.外傷	6	2				4	6
5.リウマチ	3		2	1			3
6.スポーツ	3				3		3
7.小児	2			2			2
8.腫瘍	2		2				2
9.リハビリ	3		2	1			3
10.地域	3	1				2	3
流動	8				4	4	8
合計	48	6	6	12	12	12	48

プログラム4		1年目		2年目	3年目	4年目	
研修施設		静岡 こども	東京 大学	横浜労災	関東労災	湯河原	合計
分野	必要単位数						
1.脊椎・脊髄	6		2	2	2		6
2.上肢・手	6			4	1	1	6
3.下肢	6			2	2	2	6
4.外傷	6			2		4	6
5.リウマチ	3			1		2	3
6.スポーツ	3				3		3
7.小児	2	2					2
8.腫瘍	2		2				2
9.リハビリ	3		2	1			3
10.地域	3	2				1	3
流動	8	2			4	2	8
合計	48	6	6	12	12	12	48

プログラム5		1年目		2年目	3年目	4年目	
研修施設		日立 総合	東京 大学	横浜労災	さいたま赤十字	浅間総合	合計
分野	必要単位数						
1.脊椎・脊髄	6	1		4	1		6
2.上肢・手	6			4	1	1	6
3.下肢	6	2			3	1	6
4.外傷	6	2				4	6
5.リウマチ	3		2	1			3
6.スポーツ	3				3		3
7.小児	2			2			2
8.腫瘍	2		2				2
9.リハビリ	3		2	1			3
10.地域	3	1				2	3
流動	8				4	4	8
合計	48	6	6	12	12	12	48

### 3. 横浜労災病院整形外科専門研修の目標

#### ① 専門研修後の成果

本研修プログラムでは、運動器疾患に関する幅広い知識・技能と高い倫理観を備え、日々進歩する医学に対応できる柔軟性を身につけた整形外科専門医育成をめざします。中でも当プログラムが重視しているのは、以下の点です。

- 1) 患者への接し方に配慮し、患者や医療関係者とのコミュニケーション能力を磨くこと。
- 2) 自立して、誠実に、自律的に医師としての責務を果たし、周囲から信頼されること(プロフェッショナリズム)。
- 3) 診療記録の適確な記載ができること。
- 4) 医の倫理、医療安全等に配慮し、患者中心の医療を実践できること。
- 5) 臨床から学ぶことを通して基礎医学・臨床医学の知識や技術を修得すること。
- 6) チーム医療の一員として行動すること
- 7) 後輩医師に教育・指導を行うこと。
- 8) 地域医療の重要性を十分に理解し、地域住民の健康維持向上に貢献すること。

#### ② 到達目標(修得すべき知識・技能・態度など)

##### 1) 専門知識

専攻医は、整形外科研修カリキュラムに沿って研修し、整形外科専門医として、あらゆる運動器に関する科学的知識と高い社会的倫理観を涵養します。さらに、進歩する医学の新しい知識を修得できるように、幅広く基本的、専門的知識を修得する。専門知識習得の年次毎の到達目標を別添する資料 1 に明示します。

##### 2) 専門技能(診察、検査、診断、処置、手術など)

運動器疾患に関する幅広い基本的な専門技能(診察、検査、診断、処置、手術など)を身につけます。専門技能修得の年次毎の到達目標を別添する資料 2 に示します。

##### 3) 学問的姿勢

臨床的な疑問点を見出して解明しようとする意欲(リサーチマインド)を身につけ、自らでクリニカルクエストを設定し、解決できるようになることを目標とします。そのために、以下の行動目標を定めています。

- i. 経験症例から研究テーマを立案しプロトコルを作成できる。
- ii. 研究に参考となる文献を検索し、適切に引用することができる。
- iii. 結果を科学的かつ論理的にまとめ、口頭ならびに論文として報告できる。
- iv. 研究・発表媒体には個人情報を含めないように留意できる。
- v. 研究・発表に用いた個人情報を厳重に管理できる。
- vi. 統計学的検定手法を選択し、解析できる。

さらに本研修プログラムでは、学術活動として、外部の学会での発表(研修期間中 1 回以上)と論文作成(研修期間中 1 編以上)を必須としています。

##### 4) 医師としての倫理性、社会性など

医師が守るべき法律と医師に求められる倫理規範を理解し、遵守できることが目標です。そのために、以下の行動目標を定めています。

- i. 医師法等で定められた医師の義務を知っている。
- ii. 医療法の概略、特に療養担当規則を理解している。

- iii. 医療行為に関する上記以外の法律(健康保険法・薬事法など)を十分に理解し、遵守できる。
- iv. 医療倫理、医療安全の重要性を理解し実践できる。
- v. DOH (Declaration of Helsinki)、日本医師会の「医の職業倫理綱領」を知っている。
- vi. 患者やその家族と良好な信頼関係を確立することができる。

また、チーム医療の一員として、患者ならびにその家族、そして同僚や他のメディカルスタッフとのコミュニケーション能力をつけることを目標にします。

### ③ 経験目標(種類、内容、経験数、要求レベル、学習法および評価法等)

#### 1) 経験すべき疾患・病態

整形外科の研修で経験すべき疾患・病態は、骨、軟骨、筋、靭帯、神経などの運動器官を形成するすべての組織の疾病・外傷・加齢変性です。また新生児、小児、学童から成人、高齢者まで全ての年齢層が対象となり、その内容は多様です。この多様な疾患・病態を別添する資料 3: 整形外科専門研修カリキュラムに沿って研修します。本研修プログラムでは、4 年間の研修期間で広範囲な整形外科疾患を経験・学習することが可能です。

#### ① 経験すべき診察・検査等

別添する資料 3: 整形外科研修カリキュラムに明示した経験すべき診察、検査等の行動目標に沿って研修します。尚、年次毎の到達目標は資料 2: 専門技能修得の年次毎の到達目標に示します。Ⅲ 診断基本手技、Ⅳ 治療基本手技については 3 年 9 ヶ月間で 5 例以上経験します。

#### ② 経験すべき手術・処置等

別添する資料 3: 整形外科専門研修カリキュラムに明示した経験すべき手術、処置等の行動目標に沿って研修します。本専門研修プログラムでは、どの連携施設に勤務した場合でも、研修中に必要な手術・処置の修了要件を満たすのに十分な症例を経験することができます。必要な症例を経験した上で、経験豊富な指導医の指導のもとで、それぞれの施設の特徴を生かした症例や技能を、より専門的に学ぶことができます。尚、術者として経験すべき症例については、別添する資料 3: 整形外科専門研修カリキュラムに明示した(A: それぞれについて最低 5 例以上経験すべき疾患。B: それぞれについて最低 1 例以上経験すべき疾患。)疾患の中のものとします。

#### ③ 地域医療の経験(病診・病病連携、地域包括ケア、在宅医療など)

別添する資料 3: 整形外科専門研修カリキュラムの中にある地域医療の項目に沿って周辺の医療施設との病病・病診連携の実際を経験します。本研修プログラムには、地域医療の拠点となっている施設(地域中核病院)として、焼津市立総合病院、浅間総合病院、茨城県立中央病院、日立総合病院、おたかの森病院等の幅広い連携施設が組み込まれており、これらの連携施設での研修中に、以下のような地域医療研修が可能です。

- i. 地域の医療資源や救急体制について把握し、地域の特性に応じた病診連携、病病連携のあり方について理解して実践できる。
- ii. ADL の低下した患者に対して、在宅医療やケア専門施設などを活用した医療を立案する。

#### ④ 学術活動

研修期間中に、日本整形外科学会が主催又は認定する教育研修会を受講し、所定の手続により 30 単位を修得します。東京大学整形外科同門会が主催する研究会も多数開催されており、受講が推奨されます。また研修期間中に、指導医の監督下に 1 回以上の学会発表、筆頭著者として 1 編以上の論文作成を必須とします。これらの活動を通じて、現状の医療に満足せず、一歩先の医療を確立し、患者さんに還元することで社会貢献することを目指します。

## 4. 横浜労災病院整形外科専門研修の方法

### ① 臨床現場での学習

整形外科研修で経験すべき疾患は多岐にわたります。本研修プログラムでは大学病院や特定機能病院のみならず、地域の中核病院、一般病院などさまざまな規模、携帯の医療機関を通じて研修を行うことが出来ます。原則としてプログラム制による研修としますが、卒業後に義務年限を有する自治医科大学、防衛医科大学、産業医科大学の卒業生、地域枠卒業生と出産、育児、留学などで長期にプログラムを中断しなければならない相当の合理的な理由がある場合は、カリキュラム制での研修を選択できることとします。また、他基本領域の専門医を取得してから整形外科専門研修を開始する専攻医はカリキュラム制での研修とします(カリキュラム制での研修制度については資料12参照)。いずれの場合でも研修開始時点から日本整形外科学会会員でなければなりません。

本研修プログラムでは、別添した研修方略(資料5)に従って1ヶ月の研修を1単位とする単位制をとり、全カリキュラムを10の研修領域に分割し、横浜労災病院および連携施設のローテーションの中で、それぞれの領域で定められた修得単位数以上を修得し、3年9ヶ月間で45単位を修得する修練プロセスで研修します(研修領域の設定根拠については資料4:経験すべき症例数の根拠を参照)。このようなトレーニングによって、整形外科すべての分野の疾患に対応するジェネラルな臨床能力を修得することができます。

手術手技の修得は、整形外科専攻医研修の大きな目標です。本研修プログラムでは、基幹施設および連携施設で手術手技を600例以上(術者としては300例以上)経験することができます。術者として経験すべき症例については、別添する資料3:整形外科専門研修カリキュラムに示した(A:それぞれについて最低5例以上経験すべき疾患、B:それぞれについて最低1例以上経験すべき疾患)疾患の中のものとします。初期臨床研修期間中や他領域の専門研修期間中に整形外科指導医のもとで研修した症例については整形外科専門研修期間の症例としてカウントすることができます。

各施設では、カンファレンスで症例のプレゼンテーションをすることで、診断や治療法選択に対する洞察力を身につけ、手技および手術の方法を深く理解することができます。週間スケジュールを32頁に示します。

各施設の指導医は上記の事柄について、責任を持って指導します。

具体的な年度毎の達成目標は、資料1:専門知識修得の年次毎の到達目標及び資料2:専門技能修得の年次毎の到達目標を参照のこと。

### ② 臨床現場を離れた学習・学術活動

専攻医には、日本整形外科学会学術集会をはじめとした、さまざまな関連学会や研究会への参加が推奨されます。学会でおこなわれる教育研修講演(医療安全、感染管理、医療倫理、指導・教育、評価法に関する講演を含む)やセミナーなどを聴講することで、国内外の標準的な治療、および先進的・研究的治療を学習することができます。特に本研修プログラムでは、年度始めに専攻医が一堂に会して新人研修を行い、横浜労災病院整形外科が主催するセミナーや東京大学整形外科が主催する年4回の整形外科卒後研修セミナー(6月、12月の医局研究会、9月開催のOSCAR、2月開催の淡青運動器セミナー:計4年間で32講演)に参加することにより、各整形外科分野のトップランナーからの多領域にわたる最新の知見に関する講義を受けることができます。東京大学整形外科では毎年3月には専門グループ報告会を開催しており、各専門グループの実績や最新の治療について学習することもできます。また各専門グループの勉強会は一年中開催していますので(年間予定表参照:33頁)自由に参加してもらい希望すれば、他の連携施設での手術見学や手術手技セミナーなどを通じて、様々な手術手技の修得が可能です。

これ以外にも、日本整形外科学会などが作成するe-Learningやteaching file、卒後研修用DVD等などを活用して、診断・検査・治療等についての学習を深めるとともに、自らの知識を確認することができます。

学術活動としては、専攻医が学会発表年1回以上、また論文執筆を年1本程度行えるように指導します。専門研修プログラム管理委員会は、全専攻医の学会発表数および論文執筆数を年1回集計し、面接時に指導・助言します。

### ③ 専門研修中の年度毎の知識・技能・態度の修練プロセス

整形外科専門医としての臨床能力(コンピテンシー)の獲得には、専門的知識・技能だけでなく、その礎となる医師としての基本的診療能力(コアコンピテンシー:診療態度、医療人としての職業倫理、エビデンスの活用など)が重要であると考えています。そのため、どの領域から研修を開始しても専門的な知識や技能だけでなく、これらの基本能力を身につけることを重視しています。本プログラムでは専攻医評価表を用いてフィードバックをすることによって、医師として必要なこれらの能力を早期に習熟することを目標としています。

横浜労災病院、東京大学医学部附属病院および各連携施設の医療倫理・医療安全講習会に参加し、その参加状況を年1回専門研修プログラム管理委員会に報告します。

## 5. 専門研修の評価について

### ① 形成的評価

#### 1) フィードバックの方法とシステム

専攻医は、各研修領域終了時および研修施設移動時に日本整形外科学会が作成したカリキュラム成績表(資料 6)の自己評価欄に行動目標毎に自己評価を行います。また指導医評価表(資料 7)で指導体制、研修環境に対する評価を行います。指導医は、専攻医が行動目標の自己評価を終えた後に、カリキュラム成績表(資料 6)の指導医評価欄に専攻医の行動目標の達成度評価を記載します。日本整形外科学会会員マイページで web 入力することとします。

各施設の指導医は、抄読会や勉強会を通じて専攻医が最新の医療情報を修得する手助けをし、カンファランスの際には教育的な建設的フィードバックを行うことを心がけます。

#### 2) 指導医層のフィードバック法の学習(FD)

指導医は、厚生労働省および日本整形外科学会が行う指導医講習会等を受講してフィードバック法を学習し、研修プログラムをより良いものにするように努めます。指導医講習会には、フィードバック法を学習するために「指導医のあり方、研修プログラムの立案(研修目標、研修方略及び研修評価の実実施計画の作成)、専攻医、指導医及び研修プログラムの評価」などが組み込まれています。

### ② 総括的評価

#### 1) 評価項目・基準と時期

専門専攻研修 4 年目の 12 月に、研修期間中の「研修目標達成度評価報告」と「経験症例数報告」に基づいて総合的評価を行い、専門的知識、専門的スキル、医師としての倫理性、社会性などを修得したかどうかを判定します。

#### 2) 評価の責任者

年次毎の評価は専門研修基幹施設や専門研修連携施設の専門研修指導医が行います。専門研修期間全体を通しての評価は、専門研修基幹施設の専門研修プログラム統括責任者が行います。

#### 3) 修了判定のプロセス

研修基幹施設の整形外科専門研修プログラム管理委員会において、各専門研修連携施設の指導管理責任者を交えて修了判定を行います。修了認定基準は、



- i. 各修得すべき領域分野に求められている必要単位を全て満たしていること(別添の専攻医獲得単位報告書(資料 8)を提出)。
- ii. 行動目標のすべての必修項目について目標を達成していること
- iii. 臨床医として十分な適性が備わっていること
- iv. 研修期間中に日本整形外科学会が主催又は認定する教育研修会を受講し、所定の手続により 30 単位を修得していること
- v. 1 回以上の学会発表、筆頭著者として 1 編以上の論文があること  
の全てを満たしていることです。

#### 4)他職種評価

専攻医に対する評価判定に他職種(看護師、技師等)の医療従事者の意見も加えて医師としての全体的な評価を行い専攻医評価表(資料 9)に記入します。専攻医評価表には指導医名以外に医療従事者代表者名を記します。

## 6. 研修プログラムの施設群について

下表の41病院が基幹と連携病院です。

東京都内・神奈川県内の主要病院、東京大学医学部付属病院と近隣県の中核病院をローテーションするプログラムです。地域医療連携施設であっても多くの症例を経験できます。

東京都(23)	埼玉県(5)
東京大学医学部付属病院	さいたま赤十字病院
都立墨東病院	国立障害者リハビリテーションセンター
武蔵野赤十字病院	自治医大さいたま医療センター
都立多摩総合医療センター	埼玉医大総合医療センター
都立広尾病院	埼玉県総合リハビリテーションセンター
日赤医療センター	
JR 東京総合病院	<b>神奈川県(6)</b>
国立国際医療センター	関東労災病院
JCHO 東京高輪病院	横浜労災病院(基幹)
三宿病院	虎の門病院 分院
JCHO 東京山手メディカルセンター	国立相模原病院
関東中央病院	東芝林間病院
東京逡信病院	JCHO 湯河原病院
東京都健康長寿医療センター	
三井記念病院	<b>茨城県(2)</b>
虎ノ門病院	茨城県立中央病院
都立北療育医療センター	日立総合病院
NTT 東関東病院	
三楽病院	<b>千葉県(1)</b>
都立駒込病院	おおたかの森病院
心身障害児総合医療療育センター	
JCHO 東京新宿メディカルセンター	<b>静岡県(2)</b>
東都文京病院	焼津市立総合病院
	静岡県立こども病院
	<b>長野県(1)</b>
	浅間総合病院
	<b>栃木県(1)</b>
	自治医大

## **7. 専攻医受入数について**

各専攻医指導施設における専攻医総数の上限(4 学年分)は、当該年度の指導医数×3 となっています。各専門研修プログラムにおける専攻医受け入れ可能人数は、専門研修基幹施設および連携施設の受け入れ可能人数を合算したものです。またプログラム参加施設の合計の症例数で専攻医の数が規定され、プログラム全体での症例の合計数は、(年間新患数が 500 例、年間手術症例を 40 例) × 専攻医数とされています。

この基準に基づき、専門研修基幹施設である横浜労災病院整形外科と専門研修連携施設全体の指導医数は 65 名、年間新患数 38000 名以上、年間手術件数およそ 15000 件と十分な指導医数・症例数を有しますが、質量ともに十分な指導を提供するために、1 年 5 名、4 年で 20 名を受入人数とします。

## **8. 地域医療・地域連携への対応**

整形外科専門医制度の目的の一つは地域の整形外科医療を守ることです。本研修プログラムで専攻医は、地域に密着した地域医療研修病院に常勤医、あるいは非常勤医として3 ヵ月(3 単位)以上勤務することにより、主として一般整形外科外傷の診断、治療、手術に関する研修を行います。また周囲医療機関との病病連携、病診連携を経験・修得します。

地域において高度な指導の質を保つため、地域医療研修病院の指導医は、基幹病院と密接な連携をとるとともに、学会や横浜労災病院整形外科および東京大学整形外科同門会が主催する研究会へ積極的に参加することで自己研鑽に努めます。そしてカンファランスや抄読会などを通して、専攻医に対して正確で高度な医療知識・技術の指導を行います。また指導医は研修プログラム管理委員会に参加するとともに、自らが指導した専攻医の評価報告を行います。同時に、専攻医からは指導医の逆評価が研修プログラム管理委員会に提出することにより、指導医と専攻医がお互いに評価・研鑽する体制をとります。

## **9. サブスペシャリティ領域との連続性について**

整形外科専門医のサブスペシャリティ領域としては、日本脊椎脊髄病学会専門医、日本リウマチ学会専門医、日本手外科学会専門医等があります。横浜労災病院整形外科研修プログラムには、これらのサブスペシャリティ領域の研修病院が複数含まれており、専門医教育と平行して、サブスペシャリティ領域への連続的な育成に配慮しています。またそれ以外にも膝関節外科、股関節外科、スポーツ整形外科、外傷、足外科等のサブスペシャリティに対する指導体制が充実しており、専攻医が希望するサブスペシャリティ領域について、より専門的な技術・知識を修得することができます。また基幹病院における各サブスペシャリティ領域の専門外来への参加も推奨されます。サブスペシャリティグループごとに、より専門的な知識修得のための勉強会や抄読会を定期的開催しており、専攻医はこれらに自由に参加できます。専攻医によるサブスペシャリティ領域の症例経験や学会参加は強く推奨されます。希望者には、サブスペシャリティ領域における学会発表や論文作成を指導医がサポートします。

## **10. 整形外科研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件**

傷病、妊娠、出産、育児、その他やむを得ない理由がある場合の休止期間、合計 6 ヵ月以内とします。

限度を超えたときは、原則として不足期間分の追加履修が求められます。疾病の場合は診断書の、妊娠・出産の場合はそれを証明するものの添付が必要です。留学や診療実績のない大学院の期間は、研修期間に組み入れることはできません。また研修の休止期間が6カ月を超えた場合には、専門医取得のための専門医試験受験が遅れる場合もあります。

専門研修プログラムの移動に際しては、移動前・後のプログラム統括責任者及び整形外科領域の研修委員会の同意が必要です。

## **11. 専門研修プログラムを支える体制**

### **① 専門研修プログラムの管理運営体制**

基幹施設である横浜労災病院においては、指導管理責任者(プログラム統括責任者を兼務)および指導医の協力により、また専門研修連携施設においては、指導管理責任者および指導医の協力により、専攻医の評価体制を整備します。専門研修プログラムの管理には、添付した日本整形外科学会作成の指導医評価表や、専攻医評価表などを用いた双方向の評価システムにより、指導医と専攻医が互いにフィードバックすることによって、研修プログラムの改善に努めます。

上記目的達成のために、専門研修基幹施設に専門研修プログラムと専攻医を統括的に管理する**整形外科専門研修プログラム管理委員会**を置き、年に一度委員会を開催します。プログラム管理委員会はプログラム統括責任者と各連携病院の連携施設研修管理責任者で構成されています。

### **② 労働環境、労働安全、勤務条件**

労働環境、労働安全、勤務条件等は各専門研修基幹施設や専門研修連携施設によって異なり、それぞれの病院規定に従いますが、労働環境、労働安全、勤務条件等へ以下に示す配慮をします。

- 1) 研修施設の責任者は、専攻医のために適切な労働環境の整備に努めます。
- 2) 研修施設の責任者は、専攻医の心身の健康維持に配慮します。
- 3) 過剰な時間外勤務を命じないようにします。
- 4) 施設の給与体系を明示します。

総括的評価を行う際、専攻医および指導医は専攻医指導施設に対する評価も行い、その内容は専門研修プログラム管理委員会に報告されます。そこには労働時間、当直回数、給与など、労働条件についての内容が含まれます。

## **12. 専門研修実績記録システム、マニュアル等について**

### **① 研修実績および評価を記録し、蓄積するシステム**

原則として、整形外科専門研修カリキュラムの自己評価と指導医評価、及び症例登録は日本整形外科学会会員マイページからweb入力で行います。

### **② 医師としての適性などの評価法**

指導医は、別添の研修カリキュラム「医師の法的義務と職業倫理」の項で、各専攻医の医師としての適性を併せて指導し、整形外科専門医管理システムにある専攻医評価表(資料9)を用いて、入院患者・家族とのコミュニケーション、医療職スタッフとのコミュニケーション、全般的倫理観、責任感を評価します。

### ③ プログラム運用マニュアル・フォーマット等の整備

日本整形外科学会が作成した①整形外科専攻医研修マニュアル(資料11)、②整形外科指導医マニュアル(資料10)、③専攻医取得単位報告書(資料9)、④専攻医評価表(資料9)、⑤指導医評価表(資料8)、⑥カリキュラム成績表(資料6)を用います。③、④、⑤、⑥は日本整形外科学会会員マイページからweb入力することが可能です。

#### 1) 専攻医研修マニュアル

日本整形外科学会が作成した整形外科専門研修カリキュラム(資料3)と整形外科専攻医研修マニュアル(資料11)を参照ください。自己評価と他者(指導医等)評価は、日本整形外科学会会員マイページからweb入力することができます。

#### 2) 指導者マニュアル

日本整形外科学会が作成した別添の整形外科指導医マニュアル(資料10)を参照ください。

#### 3) 専攻医研修実績記録フォーマット

整形外科専門研修カリキュラム(資料3)の行動目標の自己評価、指導医評価及び経験すべき症例の登録は日本整形外科学会会員マイページからweb入力することができます。

#### 4) 指導医による指導とフィードバックの記録

日本整形外科学会会員マイページから専攻医評価、指導医評価をweb入力します。

#### 5) 指導者研修計画(FD)の実施記録

指導医が日本整形外科学会主催の指導医講習会等を受講すると、指導医に受講証明書が交付されます。指導医はその受講記録を整形外科専門研修プログラム管理委員会に提出し、同委員会はサイトビジットの時にこの記録を提出できるようにします。受講記録は日本整形外科学会でも保存します。

## 13. 専門研修プログラムの評価と改善

### ① 専攻医による指導医および研修プログラムに対する評価

日本整形外科学会が作成した指導医評価表を用いて、各ローテーション終了時(指導医交代時)に専攻医による指導医や研修プログラムの評価を行うことにより、研修プログラムの改善を継続的に行います。その評価は研修プログラム統括責任者が報告内容を匿名化して研修プログラム管理委員会に提出、研修プログラム管理委員会では研修プログラムの改善に生かすようにするとともに指導医の教育能力の向上を支援します。

研修プログラム管理委員会は、専攻医が指導医や研修プログラムに対する評価を行うことで不利益を被ることがないように保証します。

### ② 研修に対する監査(サイトビジット等)・調査への対応

研修プログラムに対する日本専門医機構など外部からの監査・調査(サイトビジット)に対して、研修プログラム統括責任者および研修連携施設の指導管理責任者、ならびに専門研修指導医及び専攻医は真摯に対応し、指摘事項に従ってプログラムの改善に努めます。専門研修プログラム更新の際には、評価の結果と改善策について、日本専門医機構の整形外科研修委員会に報告します。

## 14. 専攻医の採用と修了

### ① 採用方法

#### 1) 応募資格

初期臨床研修修了見込みの者であること。

#### 2) 採用方法

基幹施設である横浜労災病院整形外科におかれた整形外科専門研修プログラム管理委員会が、整形外科専門研修プログラムをホームページや印刷物により毎年公表し、整形外科専攻医を募集します。

翌年度のプログラムへの応募者は、研修プログラム責任者宛に所定の書類(推薦状、成績証明書、履歴書、医師免許(コピー)など)を提出します。詳しくは

- i. 横浜労災病院整形外科のホームページ (URL <http://www.yokohamah.johas.go.jp/>)
- ii. 電話で問い合わせ(045-474-8111:総務課、採用担当者)
- iii. e-mailで問い合わせ([senmoni@yokohamah.johas.go.jp](mailto:senmoni@yokohamah.johas.go.jp))

のいずれかでお問い合わせください。

原則として10月中に書類選考および筆記試験・面接を行い、採否を決定して本人に文書で通知します。応募者および選考結果については12月の横浜労災病院整形外科専門研修プログラム管理委員会において報告します。

### ② 修了要件

プログラムの修了要件は下記のとおりです。

- 1) 各修得すべき領域分野に求められている必要単位を全て満たしていること。
- 2) 行動目標のすべての必修項目について目標を達成していること。
- 3) 臨床医として十分な適性が備わっていること。
- 4) 研修期間中に日本整形外科学会が主催又は認定する教育研修会を受講し、所定の手続により30単位を修得していること。
- 5) 1回以上の学会発表を行い、筆頭著者として1編以上の論文があること。

以上1)～5)の修了認定基準をもとに、専攻研修 4 年目の 12 月に、研修基幹施設の整形外科専門研修プログラム管理委員会において、各専門研修連携施設の指導管理責任者を交えて修了判定を行います。

施設一覧と実績

施設名		新患数 (2020)	年間手術件数(2020)								合計
			脊椎	上肢手	下肢	外傷	リウマチ	スポーツ	小児	腫瘍	
横浜労災	神奈川	2601	518	293	433	351	31	6	99	35	1766
東京大学	東京	2306	364	237	349	219	28	110	44	174	1525
関東労災	神奈川	7877	405	456	426	687	3	746	45	35	2803
都立墨東	東京	550	19	32	69	205	0	0	22	6	353
武蔵野赤 十字	東京	3236	518	154	359	431	12	48	33	18	1573
都立多摩	東京	2810	90	155	443	464	72	29	0	14	1267
都立広尾	東京	2101	52	161	228	84	0	12	13	4	554
日赤医療 センター	東京	2312	471	27	152	185	3	13	35	15	901
JR 東京	東京	2313	0	204	432	209	6	93	10	17	971
国立国際	東京	607	33	42	272	296	0	17	14	5	679
JCHO 東京 高輪	東京	1564	0	221	34	151	0	14	0	6	426
国立相模 原	神奈川	1426	177	107	188	289	140	9	9	17	936
三宿	東京	968	9	40	51	138	0	8	0	4	250
JCHO 東 京山手	東京	1038	115	12	124	147	2	54	5	15	474
関東中央	東京	365	3	64	34	231	0	12	0	8	352
東京逡信	東京	920	0	79	145	106	1	131	4	2	468
健康長寿	東京	1233	132	43	143	144	5	0	0	6	473

三井記念	東京	628	249	13	90	167	10	12	5	4	550
虎の門	東京	1215	329	302	237	264	25	5	0	23	1185
虎の門分院	神奈川	649	37	213	75	73	23	5	0	6	432
東芝林間	神奈川	1200	1	55	128	87	5	41	5	3	325
都立北療	東京	165	0	0	0	0	0	0	4	0	4
NTT 東日本関東	東京	1865	254	109	155	149	1	235	0	20	923
三楽	東京	2000	320	28	30	42	0	1	0	4	425
JCHO 湯河原	神奈川	2545	19	64	248	131	53	6	0	10	531
都立駒込	東京	508	183	21	88	76	2	0	0	9	379
心身障害	東京	215	0	0	0	0	0	0	107	0	107
JCHO 東京新宿	東京	1950	0	33	125	352	3	45	10	4	572
焼津市立	静岡	976	2	30	83	466	3	128	23	11	746
浅間総合	長野	2466	230	142	176	183	0	13	2	2	748
茨城県中	茨城	1022	35	50	190	256	4	7	6	2	550
日立総合	茨城	695	258	57	148	152	0	2	4	11	632
埼玉リハ	埼玉	950	14	4	42	3	1	0	0	1	65
おおたかの森	千葉	5450	0	49	62	285	0	0	0	32	428
さいたま赤十字	埼玉	3339	394	343	654	592	9	97	0	26	2115



国立リハ	埼玉	106	0	0	0	1	0	0	0	0	1
静岡こども	静岡	661	0	0	0	0	0	0	178	0	178
自治さいたま	埼玉	718	23	17	76	77	1	7	6	221	428
自治医科	栃木	1703	139	34	85	107	10	5	93	39	512
埼玉総合	埼玉	4321	383	425	482	435	15	43	35	3	1821
東都文京	東京	1716	0	77	8	26	0	3	3	3	120

横浜労災病院整形外科週間予定

	月曜日		火曜日		水曜日		木曜日		金曜日	
朝	ミーティング				退院調整カンファレンス		外傷カンファレンス		カンファレンス	
午前	外来	手術	外来	手術	外来	手術	外来	手術	外来	手術
午後										
夕	カンファレンス 研究会 部長回診 脊椎カンファレンス 関節カンファレンス				Cancer board(1回/月)					

横浜労災病院整形外科、東京大学整形外科 年間予定（主要なもの）

	横浜労災病院整形外科	東京大学整形外科
4月	新任者研修会 新横浜整形外科懇話会（主催） 神奈川関節診研究会（幹事）	新人研修 UTSG（関連脊椎グループミーティング） 東京大阪ジョイントミーティング
5月	新横浜運動器セミナー（主催） 医療安全講習会	春の同窓会 医局旅行
6月	医療倫理講習会	医局研究会
7月	感染対策講習会	東大股関節研究会 UTSG（関連脊椎グループミーティング） 膝スポーツ診 夏の勉強会 文京整形外科合同セミナー LIFE 研究会（創外固定研究会）
8月	ICLS 講習会	東大・湘南鎌倉・千葉大合同外傷カンファ
9月	医療安全講習会	OSCAR 研究会 骨軟部感染症研究会 東大 THA セミナー 3病院合同外傷セミナー 関節疾患フォーラム
10月	神奈川脊椎関節疾患カンファ（幹事） 神奈川上肢外科研究会（幹事） 神奈川関節診研究会（幹事） 浜の6病院研究会（幹事）	UTSG（関連脊椎グループミーティング） 脊椎診大学院基礎ミーティング
11月	新横浜整形外科懇話会（主催） 感染対策講習会	Tokyo Knee Joint Forum 東京手の外科手術手技研究会 赤門足外科研究会 秋の同窓会
12月	医療倫理講習会	膝スポーツ診 冬の勉強会 医局研究会 関節診 研究会
1月	K2 spine 研究会（幹事） 医療安全講習会	東大・湘南鎌倉・千葉大合同外傷カンファ UTSG（関連脊椎グループミーティング） 東大股関節研究会 骨とりウマチ研究会
2月	労災脊椎カンファレンス（幹事） 東日本手外科研究会（幹事）	淡青運動器セミナー 赤門膝スポーツフォーラム
3月	感染対策講習会	東大 THA セミナー 年次グループ報告会

